

湯川記念財団「望月基金」報告書

	申請者氏名	ディニョ ウィルソン アジェリコ タン Diño, Wilson Agerico Tan
論文名	Magnetic Adsorbate Induced Spin Polarization in Carbon Materials —Fe ₂ on a planar C ₁₀ —	
国際会議名	International Conference on Magnetism (ICM 2003)	
開催地	イタリア、ローマ	
参加期日	2003年7月27日 8月1日	
参加目的：		
<p>今回参加した会議 ICM 2003 は、三年に一度開かれる、磁性に関する非常に大きな国際会議です。世界各国から多数の研究者が集まり、三年間で蓄積された新しい考え方や実験結果について議論し、相互に理解を深めるために開催されます。世界中で注目されている分野の1つであるスピントロニクスで、世界をリードしていくには、このような海外の国際会議に出席し、我々の研究成果を発表することが重要です。また、多くの研究者との議論を通して、異なる視野から研究を見つめ直し、更なる研究発展の足掛かりを掴むことが目的です。</p>		
会議の状況：		
<p>ICM 2003 において、発表1件「Inducing Spin Polarization in Carbon Materials by Magnetic Adsorbates」を行いました。その際の質疑応答では、多くの研究者から質問・コメント等を頂き活発な議論を交わすことができました。また、多くの研究者の講演を聴講して、自分の研究に関する新たな知見が得られました。会議期間を通して、多くの研究者と情報交換することができ、大変有意義な会議でした。今後、本会議で得た知見を積極的に自分の研究に取り入れ、さらに研究を発展させていきたいと思えます。</p>		
成果概要：		
<p>我々は、次世代スピントロニクスの実現に向けて、ナノスケールでのスピントロニクスのマテリアル・デバイス・プロセスデザインを目指して、表面上のナノ構造について理論的に研究を行っています。今回、我々が遂行しました炭素材料表面上の鉄ナノ構造の系では、炭素系に誘起されるスピン編極によって、スピニに依存する電流の制御の可能性を示唆しました。このような結果は、学術的に興味深いだけでなく、ナノスピントロニクスデバイスの実現という観点から、工学的にも非常に関心があります。</p>		